

2月18日(土)・19日(日)
9:00-16:30

越冬地での社会実験のため

ツル観察センター 駐車場は 利用できません

臨時駐車場から無料シャトルバスをご利用ください

ツル越冬地での安全・円滑な交通や、鳥インフルエンザのリスク管理の強化、新しい鶴観光のあり方などの調査のため試験的に行うものです。ご不便をおかけしますが、臨時駐車場の利用とシャトルバスでの移動へご理解・ご協力をお願いします。
※お体が不自由な方が乗車されている車やタクシー、ツアーバスなど一部の車両はのぞきます。

無料シャトルバス 30分間隔で運行

臨時駐車場



約10分

ツル観察センター

- 駐車場内では、係員の誘導に従ってください。
- ツル観察センター 2階からは、天然記念物に指定されている越冬地を見渡せます。展示物やボランティアガイドによる説明もあります。(入場料210円)。

越冬地ガイドツアー

現地に精通したガイドとツルが過ごす干拓地内を巡る企画バスを運行します。(1時間1便、所要時間40分程度、ツル観察センター発着、先着順、無料)

本ガイドツアーは、(公財)日本生態系協会が地球環境基金の助成を受け実施します。



なぜ、社会実験で立入規制をするのか？

越冬ツルの、いま

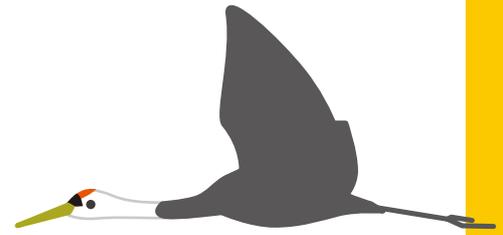
出水の冬の風物詩、ナベヅルやマナヅル。

かつては、西日本の各地で越冬していましたが、

開発などで生息環境が失われ、現在では

世界のナベヅルの9割、マナヅルの5割が出水で越冬しています。

その数は約1万7千羽にもなりますが、国際的にみれば数が少なく保護が必要です。



抱えている問題

出水ではツルの保護や、ツルによる農業被害を防ぐために保護区内で給餌をしています。

しかし、その給餌により多くのカラスやカモ類が集まり、農業や漁業被害を引き起こしています。

また、あまりに多くの野鳥が集中するため、干拓地を出入りする自動車の消毒など鳥インフルエンザ対策の徹底が一層必要となっています。

この他にも、路上でツルを観察する人や車が地元の人の通行や農作業の妨げにもなっています。

なぜ、立入規制をするのか

ツル越冬地の干拓地（表面参照）では、

一部が保護区となり、人の立入が禁止されていますが、将来的には干拓地全体への立入規制を検討しています。

それは、立ち入り車両が減ることで、上記にあげた鳥インフルエンザなどへのリスク管理の強化にもつながりまた、地元の人々の通行や農作業の妨げとなる駐車を防ぎ、人もツルもより安心して暮らせるようにするためでもあります。

この規制では、ツルを観察に訪れる方に、専用バスでガイドの説明を聞きながら、ツルや野鳥のこと、ツルとともに暮らす出水のことをより深く知り、関心を持っていただきたいと考えています。

ご協力、よろしく申し上げます。